

**YAMAHA ELECTONE®**

**CK-30 CK-50**



取扱説明書

このたびはヤマハエレクトーンをお買い上げいただきましてありがとうございました。  
おでもとのエレクトーンは、楽器づくり80年の経験をもとに、ヤマハが精魂こめてつくりあげたものです。  
その音色は幅広く、さまざまな楽器の利点を合わせ持っており、さらに、初心者の方でも手軽に楽しめる  
オートベース/コードシステムを取り入れています。どうぞご家族みなさまでお楽しみください。  
本書では、CK-50、CK-30の2機種について正しい取り扱い方法をご説明いたしておりますので、  
ぜひご一読くださいますようお願い申し上げます。

# YAMAHA ELECTONE®

## 目次

2

各部の名称

6

エレクトーンの特長

1. 表現力は多彩です
2. エレクトーンのしくみ
3. エレクトーンの弾き方

9

エレクトーンの弾き方

12

エレクトーンの音色

1. トーンレバー
2. プリセット

16

演奏効果のいろいろ

1. エフェクトレバー
2. コントロールレバー
3. サステインについて
4. トレモロ／コーラスについて

20

オートリズム

24

オートベース／コード

28

仕様

30

カセットテープデッキEC-500

34

防音について

36

シンセサイザーのご紹介

37

エレクトーンの扱い方

1. 取り扱い上のご注意
2. 椅子の組み立て方
3. 付属端子

40

アフターサービス

42

これらの現象は故障ではありません

44

ヤマハエレクトーン教室のご紹介

45

ヤマハステレオのご紹介

# 〔各部の名称〕

CK-30



- ① 上鍵盤
- ② 下鍵盤
- ③ ペダル鍵盤
- ④ 上鍵盤のトーンレバー
- ⑤ 下鍵盤のトーンレバー
- ⑥ ペダル鍵盤のトーンレバー

- ⑦ プリセット
- ⑧ エフェクトレバー
- ⑨ コントロールレバー
- ⑩ タブレット
- ⑪ トレモロスピードコントロール
- ⑫ オートリズム

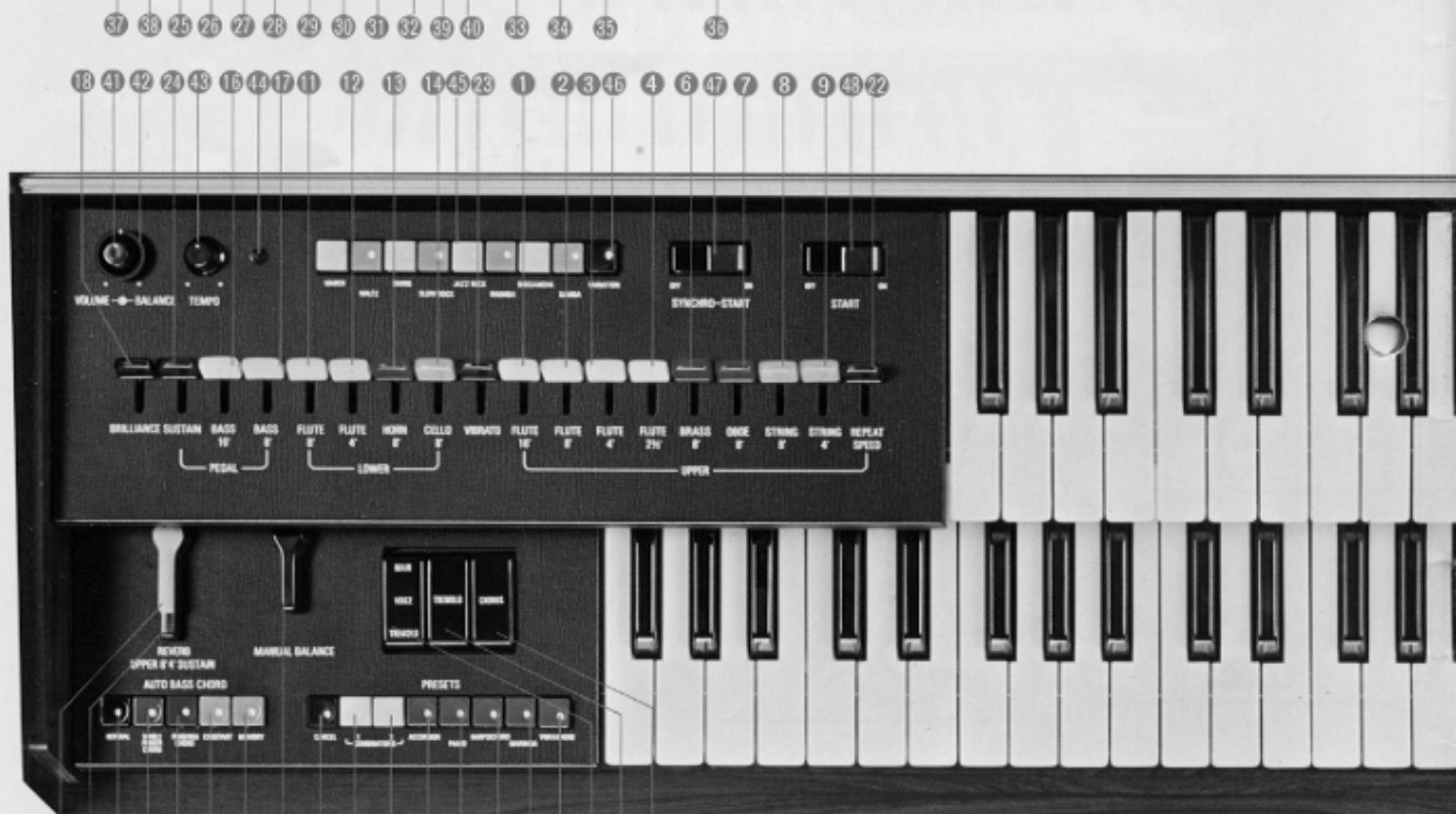
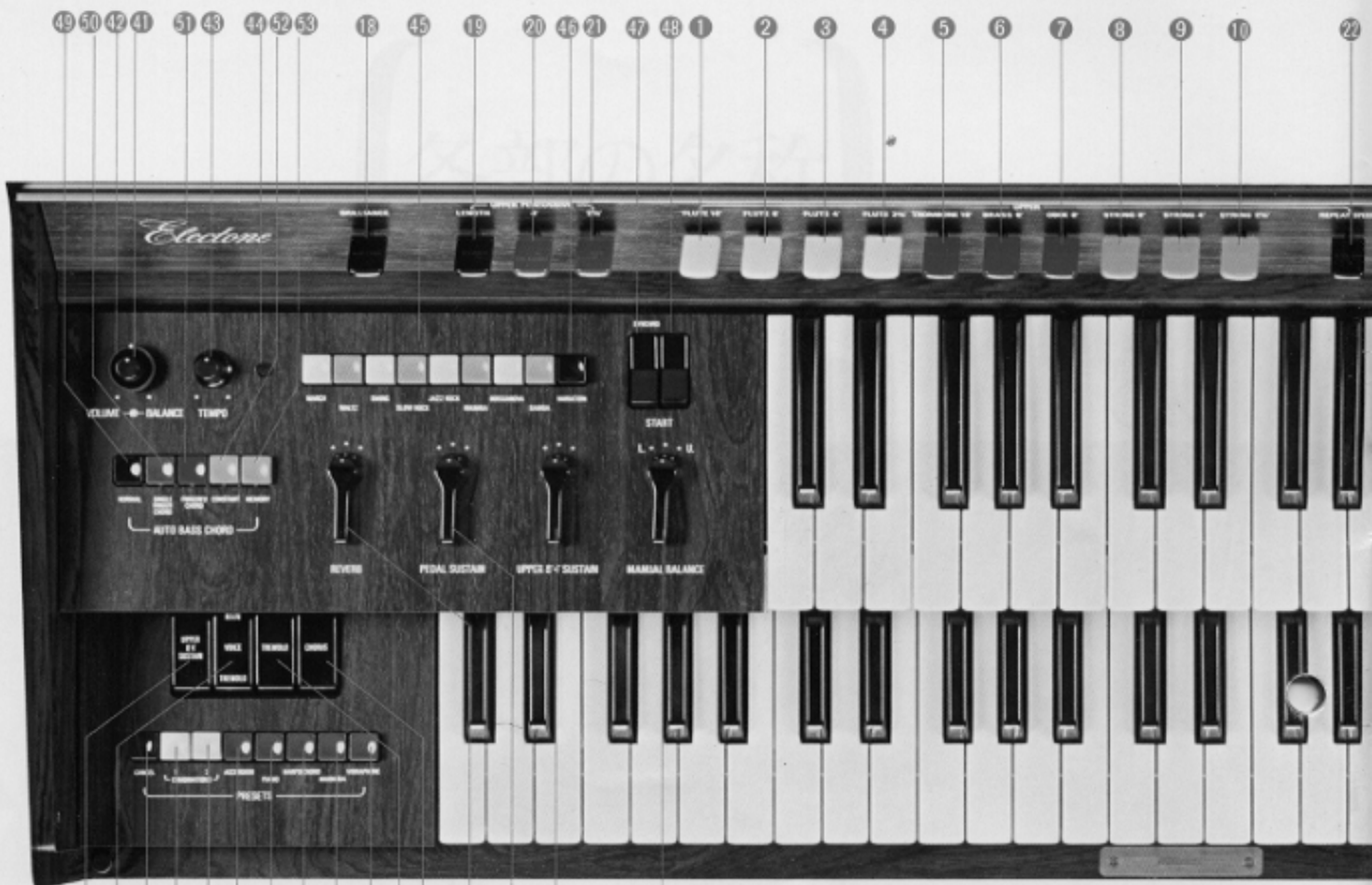
- ⑬ オートベース/コード
- ⑭ トータルボリューム
- ⑮ パワースイッチ
- ⑯ ニーレバー
- ⑰ エクスプレッションペダル
- ⑱ カセットテープデッキEC-500(別売)

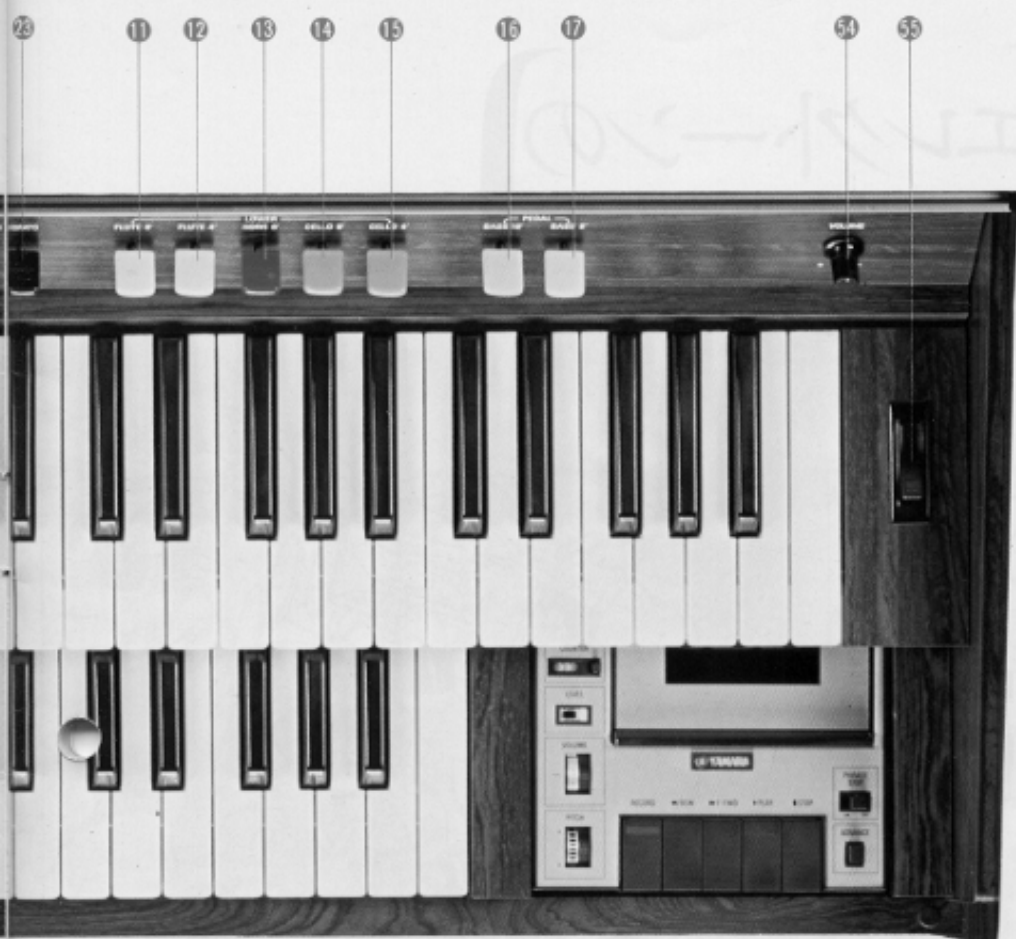


- ① 上鍵盤
- ② 下鍵盤
- ③ ペダル鍵盤
- ④ 上鍵盤のトーンレバー
- ⑤ 下鍵盤のトーンレバー
- ⑥ ペダル鍵盤のトーンレバー

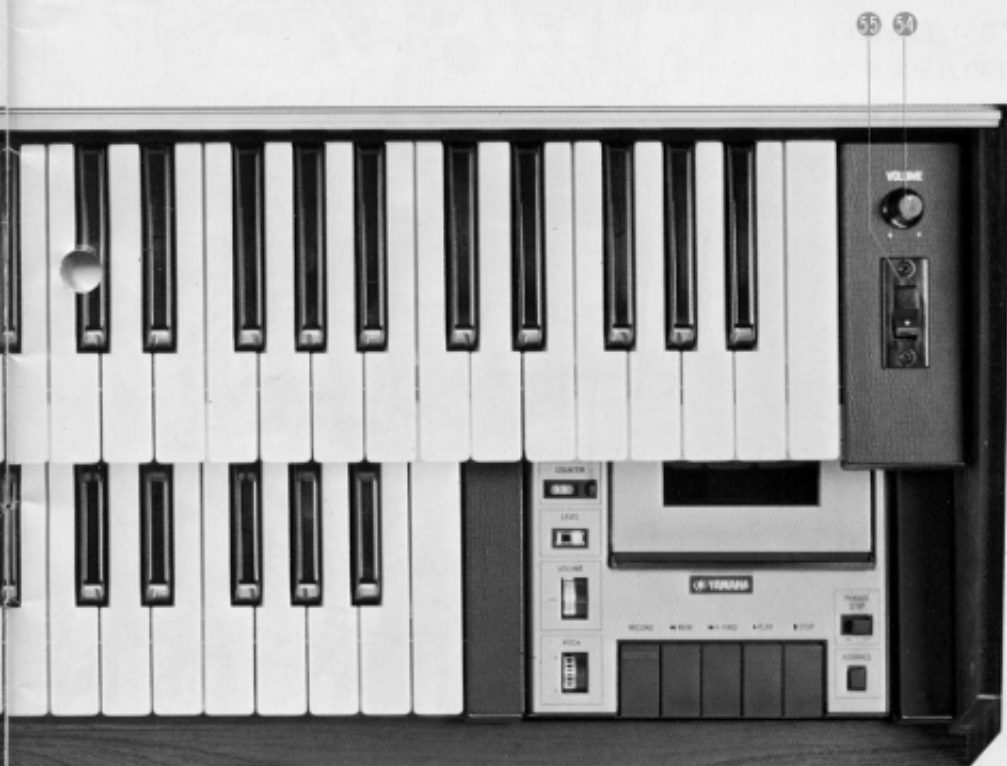
- ⑦ プリセット
- ⑧ エフェクトレバー
- ⑨ コントロールレバー
- ⑩ タブレット
- ⑪ トレモロスピードコントロール
- ⑫ オートリズム

- ⑬ オートベース/コード
- ⑭ トータルボリューム
- ⑮ パワースイッチ
- ⑯ リーレバー
- ⑰ エクスプレッションペダル
- ⑱ カセットテープデッキEC-500(別売)





CK-50



CK-30

上鍵盤のトーンレバー

- ①フルート16'
- ②フルート8'
- ③フルート4'
- ④フルート2 $\frac{2}{3}$ '
- ⑤トロンボーン16' (CK-50のみ)
- ⑥ブラス8'
- ⑦オーボエ8'
- ⑧ストリング8'
- ⑨ストリング4'
- ⑩ストリング2 $\frac{2}{3}$ ' (CK-50のみ)

下鍵盤のトーンレバー

- ⑪フルート8'
- ⑫フルート4'
- ⑬ホルン8'
- ⑭チェロ8'
- ⑮チェロ4' (CK-50のみ)

ペダル鍵盤のトーンレバー

- ⑯バス16'
- ⑰バス8'
- ⑱プリリアンス
- ⑲パーカッション(CK-50のみ)
- ⑳パーカッション4' (CK-50のみ)
- ㉑パーカッション2 $\frac{2}{3}$ ' (CK-50のみ)

- ㉒リビートスピード
- ㉓ビブラート
- ㉔ペダルサステイン(CK-30のみ)

- ㉕キャンセル
- ㉖コンビネーション1
- ㉗コンビネーション2

- ㉘アコーディオン
- ㉙ピアノ
- ㉚ハーブシコード
- ㉛マリンバ
- ㉜ビブラフォン
- ㉝リバーブ
- ㉞ペダルサステイン(CK-50のみ)
- ㉟アッパ-8' 4' サステイン
- ㊱マニュアルバランス
- ㊲アッパ-8' 4' サステイン(CK-50のみ)

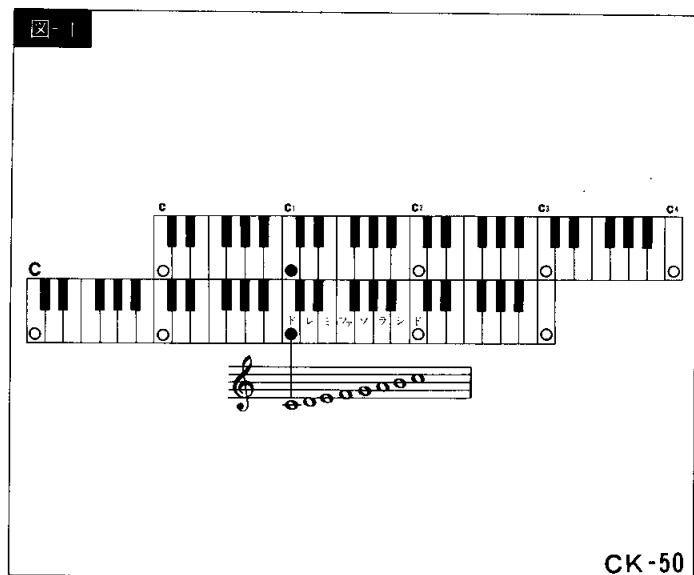
- ㊳ボイス
- ㊴トレモロ
- ㊵コーラス
- ㊶オートリズムボリューム
- ㊷オートリズムバランス
- ㊸テンポコントロール
- ㊹テンポインジケータランプ
- ㊺リズムセクター
- ㊻バリエーションスイッチ
- ㊼シンクロスタートスイッチ
- ㊽スタートスイッチ
- ㊾ノーマル

- ㊿シングルフィンガー
- ①フィンガードコード
- ②コンスタント
- ③メモリー
- ④トータルボリューム
- ⑤パワースイッチ

写真はカセットテープデッキE C-500(別売)を組み込んだものです。

# （エレクトーンの特長）

## 1. 表現力は多彩です。



### 鍵盤について

あなたのエレクトーンをちょっとご覧ください。白と黒の鍵盤が2段ありますね。上の方は右手で、下の方を左手で弾くようになっています。これは、1段鍵盤に比べて弾きやすいというばかりでなく、上と下それぞれの音色が変えられるという利点もあります。さらに足元についているペダル鍵盤、これはあなたの左足で踏めば簡単にベース音が出せるようになっている、エレクトーン独特の鍵盤です。

エレクトーンの第一の特長はこの3段の鍵盤。あなたの手足をフルに使って、リズミカルな演奏がやさしくできます。

### いろいろな音色が楽しめます

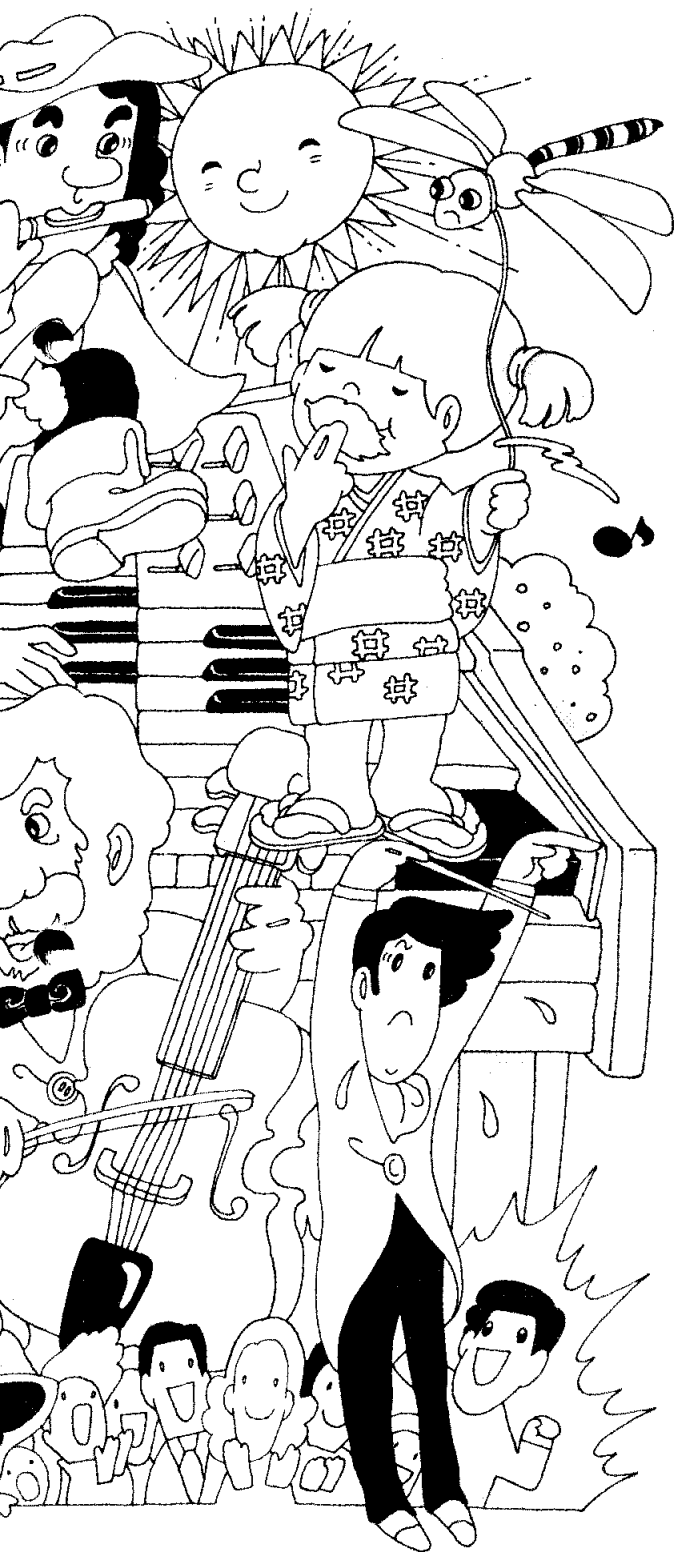
さて、エレクトーンのユニークさは鍵盤だけではありません。この3段に分かれた鍵盤からは、フルート、オーボエ、チェロ、バスなど、さまざまな楽器の音が出てくるのです。

これらの音色は、トーンレバーとプリセットのボタンによって、あなたのお好みのままに選び、組み合わせることができます。（→P.12～15参照）

### 音色に味つけができます

そしてさらに、これらの音色にいろいろな変化をつけて表現の幅を広げることができます。つまり、ビブラートやリピートスピードなどのエフェクトレバー（→P.16参照）、リバーブやサステインをかけるコントロールレバー（→P.17, 18参照）、さらにはスピーカーを回転させて独特の効果を出すトレモロ／コーラス（→P.19参照）など、あなたの工夫次第で、同じ曲でも何通りにも弾きこなせます。





### 大切なパートナー、オートリズム

マーチ、ワルツ、スイング…と、曲のリズムに応じて、シンバルやドラムの音であなたの演奏に伴奏してくれるのが、オートリズムです。演奏効果に、そして正確なリズム感を身につけるために、どんどん活用してください。

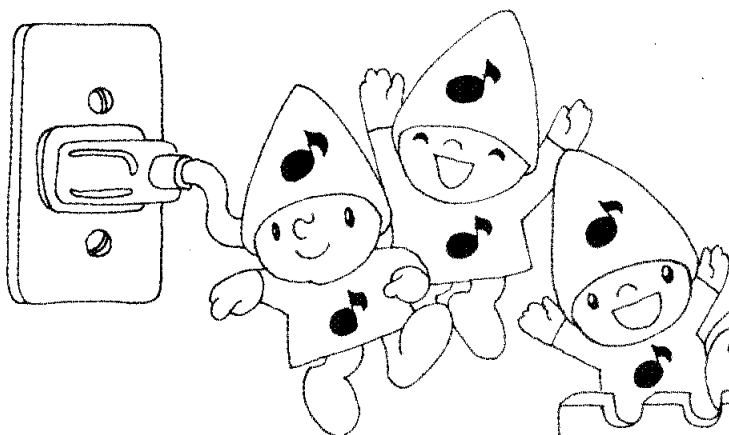
(P.20～23参照)

### 指1本で伴奏ができるオートベース/コード

オートベース/コードは、エレクトーンに新しく加わった自動伴奏装置です。左手の指1本で鍵盤を押せば自動的に伴奏音が奏でられるので、今まで弾けなかった方でも簡単にエレクトーン演奏がお楽しみいただけます。

(→P.24～27参照)

## 2.エレクトーンのしくみ



エレクトーンは、ピアノやバイオリンなどとは違って、電子発振と呼ばれる回路によって音を出す楽器です。では、どのようなしくみでエレクトーンの音が生まれるのか、簡単にご説明いたしましょう。

### 音源回路

音は、物体の振動が周辺の空気に作用して発生するものです。エレクトーンの音も、まず電気の振動を作り出すことから始まります。この電気の振動がエレクトーンの音の源となり、これを音源回路と呼びます。

### 開閉回路

次に、鍵盤数だけのドレミを、開閉回路によって選びます。

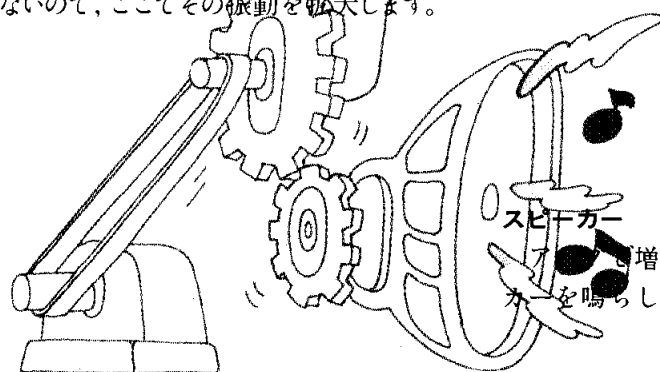


### 音色回路

楽器の音は、基音と倍音で合成されていて、この2つの配合が変わると、全く別の音色になります。音色回路では、その基音と倍音の関係をいろいろに変えて、エレクトーンのさまざまな音色を作ります。

### 増幅回路＝アンプ

今までの3つの回路を通過してきた電気の振動は、このままではまだ耳に聞こえないので、ここでその振動を拡大します。



増幅されたエレクトーンの電気振動は、スピーカーを鳴らして、初めてあなたの耳に届くわけです。

# 〔エレクトーンの弾き方〕

まず電源を入れてください。

- ①エレクトーンの背面にある電源コードをコンセントに接続します。
- ②上鍵盤の右端にある電源スイッチを押してください。
- ③パイロットランプが点灯すると演奏できます。

## 演奏の姿勢

- ①エレクトーンを中心に座ります。椅子の前半分の位置で楽な姿勢をとります。からだの重心は少し右側に寄り、左足が楽に動かせるようにしてください。
- ②主に右手は上鍵盤(メロディパート)、左手は下鍵盤(伴奏パート)、左足はペダル鍵盤(ベースパート)を演奏します。
- ③左足は力を入れずに下脚が左右に楽に動き、足首は力を

ぬき、つま先が黒鍵の手前を軽く押すように演奏します。

- ④右足はエクスプレッションペダルに乗せます。足首の力を抜き、足底全体がペダルに密着するように、そしていっばいに踏み込んだときと、その間の動作がすべて楽に動かなければいけません。

## レバーをセットしましょう

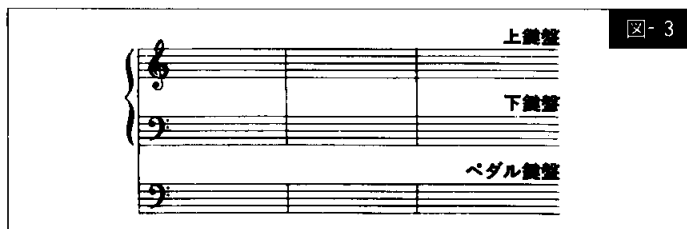
- ①正しい姿勢がとれたら、右手で鍵盤を押さえながら、トーンレバーとエフェクトレバーを入れましょう。
- ②次に、リバーブレバーやマニュアルバランスをあわせます。
- ③エクスプレッションペダルをいっばいに踏み込んで、トータルボリュームで音量を調節して下さい。



図-2

## 楽譜について

エレクトーンの楽譜は3段に書かれています。いちばん上段が上鍵盤、2段目が下鍵盤、いちばん下がペダル鍵盤のための譜になっていて、それぞれ右手、左手、左足で弾きます。



練習曲の音符には、ピアノと同様に運指のための五指の番号がついています。大体はピアノの譜に準じて読めばよいのですが、エレクトーンの譜には、特に音色の変化を指定する記号があることにご注意ください。

## マニュアルキー(手鍵盤)の弾き方

ふつうの手の形は、一度握った手を軽くひろげ、指を立てた状態にします。この形は指を早く動かすためにも必要で、あらゆる有鍵盤楽器に共通の模範的な形です。エレクトーンはピアノと違って指を離れた瞬間に音が切れてしまい

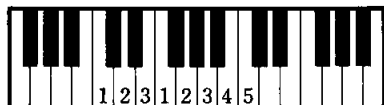
ます。ですからレガートを弾く時などは次に弾く音の上に指を用意しておいてください。

## ペダル鍵盤の弾き方

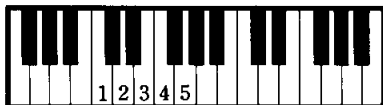
- 座る位置をいつも同じにしましょう。
- ひざから下は、ひざを中心に時計の振子のように楽に動かすのが上手な弾き方です。
- 演奏は足首でします。ひざを上下すると足が疲れやすく、また速いテンポの曲の演奏が困難になります。踏む位置は白鍵の真中より少し奥を踏み、足の指のつけ根が白鍵の真中になるようにします。
- 練習を始める前のペダル鍵盤だけのリズム練習、音階練習はペダル鍵盤の上達にたいへん有効です。

注：演奏中に足鍵盤を見ると姿勢がくずれ、ひざを開いてのぞき込むと足に不自然な力が入りますからご注意ください。

## 指使いの基本



5度以上の順次進行は音階の指使いで弾きましょう。



5度以内は5指を有効に使ってください。



原則として2度は隣の指で弾きます。



黒鍵は長い指(2, 3, 4指)で。

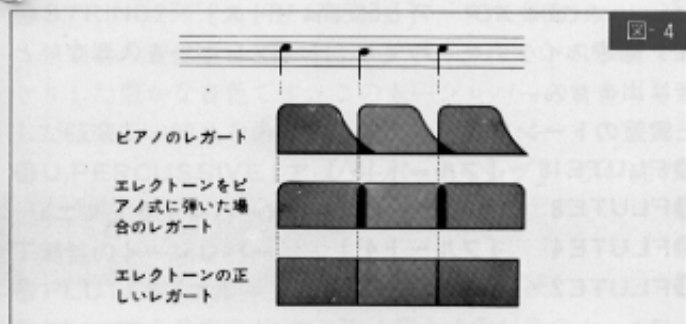


指の拡大は、なるべく1-2, 1-4, 1-5の指の間で。

# 【のべーた\エ 音

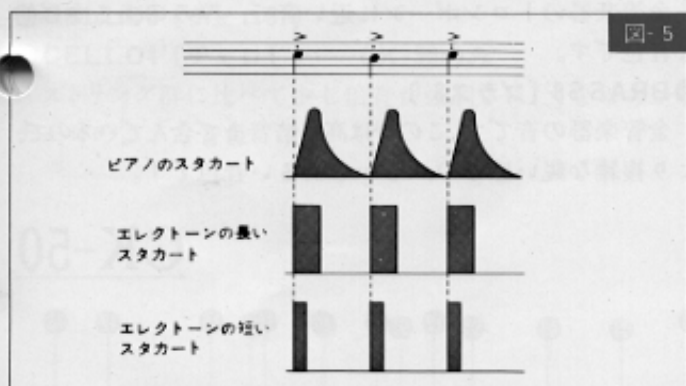
## レガート奏法

ピアノの場合、キーを押してから少し遅れて音が出ますが、エレクトーンは押した瞬間に出、キーを離すまで同じ強さの音が続きます。ですからエレクトーンをピアノ式のレガートで弾くと音の前後が重なって汚い音になるので、ピアノとは違うタッチで正しいレガートが弾けるように練習してください。



## スタカート

スタカートもピアノとは大変違い、エレクトーンではキーを押している時間によって音の長さが変えられます。つまり、いろいろな程度のスタカートが使い分けられるのです。



## トーンレバーの操作について

エレクトーンは、演奏を始める前にトーンレバーを入れておかないと音が出ません。これをどう組み合わせで入れるか、つまり音色をどう決めるかは、普通楽譜の最初に指定されています。曲の途中でトーンレバーを入れかえても、一層変化がついて面白くなります。曲の途中での操作に左右どちらの手を使うかは編曲によって違ってきますが、メロディが途中で切れないように、その時の都合のよい方の手で入れかえればよいのです。

トーンレバーの入れ方によっては、上鍵盤と下鍵盤の音量がアンバランスになることがあります。そのときはマニュアルバランスを使って調節してください。

## エクスプレッションペダルの使い方

音の強弱、つまり音楽の表情は、右足のエクスプレッションペダルによってつけます。クレッシェンドのときは、ごくゆっくり静かに踏みこみ、デクレッシェンドのときは、ゆっくりと戻します。しかしこのペダルはあまり使いすぎないように、音楽の自然な流れにそって、わざとらしくない程度につけてください。

## ヘッドホンジャックについて

鍵盤の右手下側にヘッドホンジャックがついています。これにヘッドホンを接続すれば、音はスピーカーから出なくなるので、夜でもひとり静かに心ゆくまで練習できます。(→P.34参照)

# (エレクトーンの 音色)

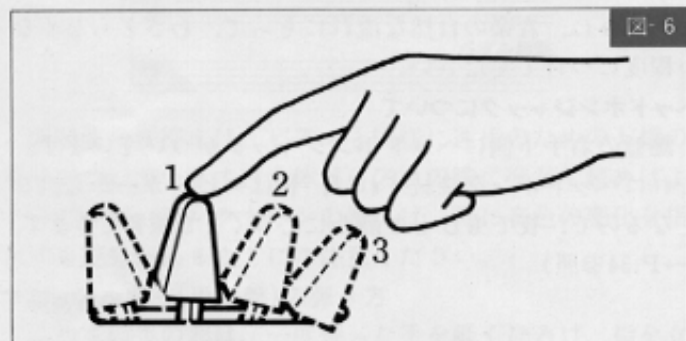
## 1. トーンレバー

### トーンレバーについて

トーンレバーは、鍵盤から出る音色を決めるスイッチです。これは上鍵盤用、下鍵盤用、ペダル鍵盤用に分かれていて、それぞれをお好きな音色にセットすることができます。

また、このレバーは、クリックストップといって、3段階に押し下げられるように、途中2ヶ所でちょっと手ごたえがあり、音量の調節ができるようになっています。

(→図参照)



### トーンレバーによるカブラー効果

トーンレバーには、8' (8フィートと読みます)、4' などの記号がついていますが、この数字はパイプオルガンのパイプの長さを意味し、異なった数字の組み合わせをすると、いろいろなサウンドが楽しめます。たとえば、フルート8'をいっぱいにおろし、次にフルート16'を入れて演奏すると、1つのキー(鍵盤)を押しただけで、フルート8'の音(押さえたキーの実音)と、その1オクターブ下の音(フルート

16'の音)との二重音が出るわけです。これをカブラー効果といい、下げるレバーの種類、クリックストップによるレバーの下げ具合で、いくつものサウンドが作り出せます。

### フィートによる音域

- 16'.....1オクターブ低い音
- 8'.....実音(弾いた鍵盤と同じ高さ)
- 4'.....1オクターブ高い音
- 2½'.....1オクターブと5度高い音

注：電源スイッチを入れても、トーンレバーを入れないと音は出ません。

### 上鍵盤のトーンレバー

- ① FLUTE 16' [フルート 16']
- ② FLUTE 8' [フルート 8']
- ③ FLUTE 4' [フルート 4']
- ④ FLUTE 2½' [フルート 2½']

フルートの音は柔らかく澄んでいて、他の音色とのハーモニーがきれいです。フルートのトーンレバーは16'・8'・4'・2½'と多くの種類があり、いろいろなカブラー効果が楽しめます。

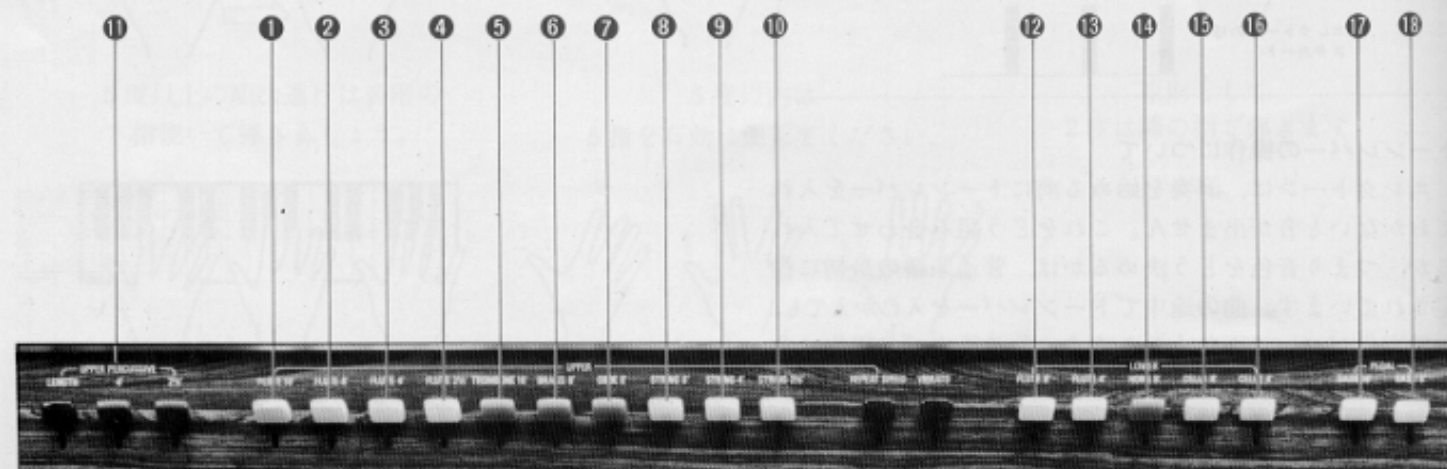
### ⑤ TROMBONE 16' [トロンボーン 16'].....CK-50のみ

金管楽器のトロンボーンに近い音で、厚みのある金属的な音色です。

### ⑥ BRASS 8' [ブラス 8']

金管楽器の音です。この音は高い倍音まで含んでいるので、より複雑な鋭い感じの、しかも明るい音色です。

## CK-50



⑦ OBOE 8' [オーボエ 8']

ダブルリードの楽器で、基音よりずっと高い倍音を持っているのが特徴です。したがって、演奏に味をつける効果があり、ストリング群などに加えると、鋭いクリアーな効果があらわれます。

⑧ STRING 8' [ストリング 8']

⑨ STRING 4' [ストリング 4']

⑩ STRING 2 3/4' [ストリング 2 3/4']……CK-50のみ

弦楽器の音はずっと強い倍音まで含まれているため、すっきりした豊かな音色です。このトーンレバーの音色もそうした弦楽器の特長をあらわしています。

⑪ U.PERCUSSIVE [アップパーパーカッシブ]……CK-50のみ

→「エフェクトレバー」P.16参照

下鍵盤のトーンレバー

⑫ FLUTE 8' [フルート 8']

⑬ FLUTE 4' [フルート 4']

上鍵盤のフルートと同じ音色です。

⑭ HORN 8' [ホルン 8']

ブラスの音を少し甘くした音色で、クセのない豊かなホルンの音が得られます。

⑮ CELLO 8' [チェロ 8']

⑯ CELLO 4' [チェロ 4']……CK-50のみ

ストリング群に比べて少し倍音が強調された、なめらかなチェロのような音色です。

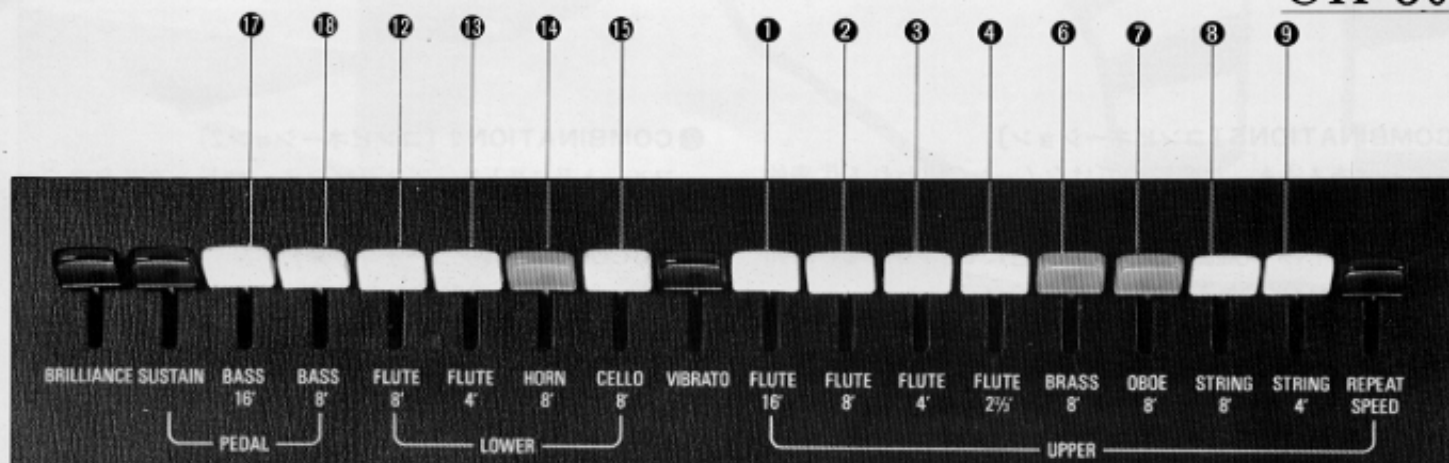
ペダル鍵盤のトーンレバー

⑰ BASS 16' [バス 16']

⑱ BASS 8' [バス 8']

基音が強く、倍音が少ない音ですが、16'は体に響くような音圧を持ち、8'は音程が聴きとりやすく、メロディ演奏もできます。

CK-30



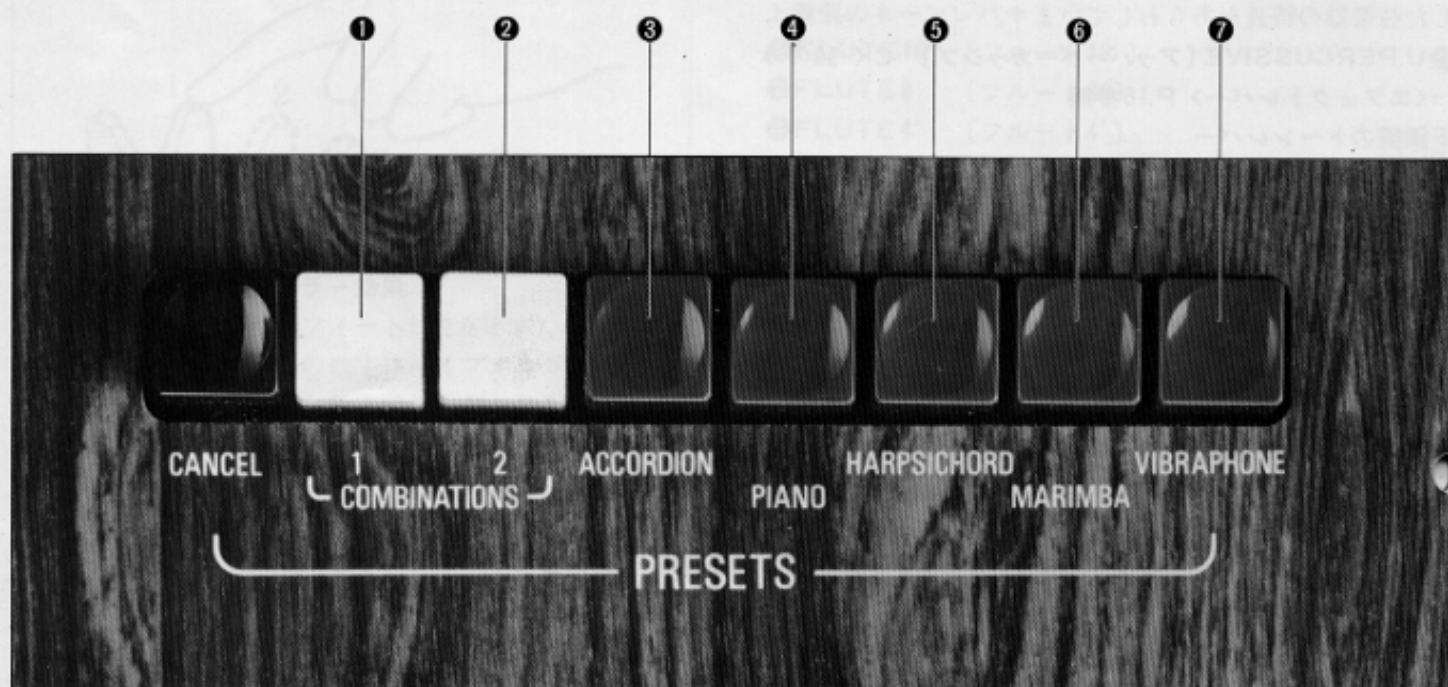
# 【エレクトーンの 音色】

## 2.プリセット

下鍵盤左拍子木の一番手前にある8つのボタンです。このボタンを押すと、トーンレバーを入れていても、ワンタッチでいろいろなプリセット音に切り替わります。したがって演奏中でも、トーンレバー音色から素早くプリセット音に切り替えたり、元に戻したりすることができ、表現力が一段と増します。

このボタンの機構は、1つのボタンを押すと同時に、他のボタンは自動的にキャンセルされます。トーンレバーの音色に戻りたい時は一番左側の黒いキャンセルボタンを押してください。

注：なお、グリーンのボタンの楽器音は上鍵盤だけに、白いボタンのコンビネーションは全鍵盤にかかります。



### COMBINATIONS [コンビネーション]

これはある決まった楽器音ではなく、よく使われる代表的なサウンドをプリセットしたものです。この場合は、上鍵盤・下鍵盤・ペダル鍵盤とも一定の音色にセットされています。

#### ① COMBINATION 1 [コンビネーション1]

フルート系の音色を中心にまとめられています。同時に音の立ち上がりを鋭くするためのパーカッシブトーンが入っていますから、どちらかというとジャズ的な色彩の濃いサウンドです。

#### ② COMBINATION 2 [コンビネーション2]

フルート系にストリングを混ぜたオーソドックスなサウンドです。フルオルガンのような荘重な響きが得られます。

#### ③ ACCORDION [アコーディオン]

アコーディオンの独特な音色と、音の立ち上がり(鍵盤を押してから音が出るまでの時間が遅くしてあります)の感じがよく出されています。粋なシャンソンでも奏でてみてはいかがでしょうか。

④ PIANO [ピアノ]

フルート系の音色で作られたピアノトーンです。あらかじめ適当な長さのサステインも含まれています。

⑤ HARPSICHORD [ハープシコード]

別名チェンバロともいう、ハープシコードの音色です。左手の伴奏も上鍵盤で弾くと、さらに感じがでてきます。

⑥ MARIMBA [マリンバ]

押さえたキーと、その1オクターブ上の音が交互に出て、

マリンバのトレモロの感じを出しています。これは、和音よりも単音でメロディを弾くという使い方の方が効果的です。

⑦ VIBRAPHONE [ビブラフォン]

ビブラフォンの特徴ある音が揺れながら消えていく感じがうまく生かされています。この音色も、あっさりメロディを弾くだけで充分効果が出せます。

